

# 家庭学習応援だより

## 第7号

先日の二者面談では、お世話になりました。担任と有意義な情報交換や共通認識ができたでしょうか？私自身は、子供が6年生のときに一度、二者面談に行ったことがあります。「あれを話そう。」「これは聞いておかない。」と書いていても意外にできず、帰りの車の中で反省した記憶があります。「教師と保護者の立場が入れ替わるだけで、こんなにも意思疎通が難しいのか。」と感じた出来事でした。保護者の皆様はいかがでしたか？

さて、今号は2学期の子供たちの学習への取組や学校での授業の様子について、私が算数の授業で教室に行ったときの印象。また普段、TT(チームティーチング)で授業に出ている教師(担任外)の目から見たから学級の様子をお伝えします。「面談で担任が言っていたことと違うな。」というのものもあるかもしれません。ですが、担任の見方と担任外の見方では、子供との関わりの多寡や担任としての思い入れなど多少違うでしょうから、「そういう面もあるのかな。」くらいに思ってください。また、今月は学期末PTAがありますので、そちらで学級全体の様子を、ぜひご確認ください。各担任からのコメントは次号でお伝えします。



## コミュニケーションボード

### 1年1組の学習の様子(武石教諭)

学習においては、既習の内容と現在の学習内容を関連付けて考えられるようになってきました。難しい課題に対して、すぐに教師に聞こうとせず、一度自分の力で考えてみようという姿勢が見られます。

漢字やひらがなの書き順の間違いが気になります。お家で見てあげてほしいと思います。

### 2年1組の学習の様子(木村教諭)

1学期と比べると授業に落ち着いて取り組めるようになってきました。気持ちの安定が学習態度に現れていると感じます。

月例テストを採点してみると、全体的に漢字やかけ算の九九に課題があるように思います。何度も繰り返し練習して苦手を克服した児童もいるので、覚えることを面倒がらずに頑張ってもらいたいです。

### 3年1組の算数の学習の様子(川島)

算数の授業では、担任が出す発展的な課題に好んで取り組む児童が多い印象です。ただ、ノートの取り方を見ていると児童によってまちまちで、家庭で学習を振り返ることができるのかなと感じます。また、かけ算の筆算や単位変換が苦手な児童が多いです。高学年になる前に、定着するまで根気強く復習できるとよいと思います。

### 4年1組の学習の様子(武石教諭)

1学期と比べると自分の考えを上手に表現しようとする姿勢が高まっています。ただ、算数の学習では、教科で用いている適切な語句を使えないことがあり、惜しいと感じます。

今後の学習では、例えば算数なら、図形などを操作して解答する課題が多くでできます。丁寧に作図や作業ができるようになると、さらに良いと思います。

### 5年1組の算数の学習の様子(川島)

算数の学習では、立式の際に、1、2段階とばして考えようとする子が多いです。きっと、暗算でできてしまうのでしょうか…。ただ、こうした手順を無視した立式の仕方だと、説明を必要とする問題(全国学力テスト)や中学数学の「合同の証明」のような課題で、適切な条件で説明や証明ができなくなってしまうのではないかと、心配です。4年生のときに子供たちには話しましたが、面倒でも思考の過程がわかるように立式する習慣(クセ)を身に付けてほしいです。

### 6年1組の算数の学習の様子(川島)

算数だけ取り上げると、学力の分布にかなりばらつきがあるなという印象です。その様子は、授業中の鉛筆の動きに現れているように思います。例えば、理解できていない子は、全く鉛筆が動きません。「線分図でもいいし、分かっていることを書き出すだけでもいいのに…。」と思ってしまうのですが…。一方で、どんどん先に進もうとする子もいます。中学校に入学するまでに、5、6年生で学習した内容を一通り学び直しておくとうれしいと感じました。

# 今年の学力診断テストは、いつ？



「学力診断のためのテスト」が年明けすぐ(令和4年1月12、13日)に実施されます。昨年度は、コロナ禍で新たな問題が作成できず、「学力定着度調査」という名称で、代替のテストを実施しました。今年度は4年生以上の児童がテストを受験します。「学力診断のためのテスト」の出題範囲は、基本的には「令和2年度の1月から令和3年度の12月までに履修した内容」となります。ですが、4年生だけは例年とは異なりますので、注意してください。

- 小学4年生の社会・・・小4の4月から12月までに履修した内容、及び小3の「くらしを守る」「市のうつりかわり」を含む内容
- 小学4年生の理科・・・小4の4月から12月までに履修した内容

また、下記に教科ごとの学習のポイントを載せておきます。学校の授業でも何度も指導している事項ですが、なかなか定着しない事項を取り上げています。ご家庭の協力をよろしくお願いいたします。低学年のお子様をもつ保護者の皆様には、数年後に身に付けさせたい学力が具体的に示されていますので、一読いただければと思います。

## 国語の学習のポイント

- 中学年の国語の設問には、よく「目的に応じて必要な事柄を書く」力を見取る問題が出題されます。こうした問題を解くためには、原因や理由を述べるための適切な語句を記述する必要があります。「なぜかという～」や「その理由は～」がそうです。また、事柄について述べる際には、「例えば、～」のような語句が必要です。
- 高学年では、複数の資料から、自分の考えを裏付ける部分を引用して答える問題が出題されます。引用とは、本や文章から必要な語句や文を抜き出すこと、です。原文(漢字や仮名遣い、句読点も含む)を正確に引用したり、引用部分を「」で記述したりする必要があります。



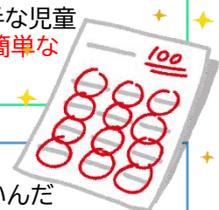
## 社会の学習のポイント

- 社会のポイントは、非常に明確です。いくつもある資料を関連付けて読み取ることがポイントです。例えば、ある市の人口の移り変わりのグラフと年表があるとします。人口が大きく推移するには当然理由があるわけですが、子供の目にはグラフと年表の一つ一つの資料が関連付けられず、別のものに見えてしまうことがあるようです。以前にも書きましたが、社会科でも「なぜ？」を意識した問題解決的な学習が効果的です。家庭においては、例えば親子の会話の中に、新聞やニュースなど、社会の出来事に触れる機会を作ってあげてほしいと思います。



## 算数の学習のポイント

- 単位量当たりの大きさを求める「わり算」が苦手な児童は多いです。また、わり算で出た商の意味を理解するのも苦手なようです。例えば、混み具合を調べようとするとき、「単位面積当たりの人数(人数÷面積)」を比べる場合、「単位人数当たりの面積(面積÷人数)」を比べる場合では、どちらを単位量とするのかを判断するのがポイントです。5年生で出てくる単元ですが、単位量当たりの大きさは、本校のどの学年の児童にも当てはまる課題です。
- 以前にも具体例を示したことがあります。基準量と比較量の割合の問題がポイントです。どうしても苦手な児童が多い設問です。そうした場合は、いきなり立式するのではなく、線分図で考えてみたり、100や10など簡単な数字に置き換えてみたりして、考えてみるとよいと思います。家庭でも繰り返し練習すると定着できます。



## 理科の学習のポイント

- 理科は、普通の授業で行った実験や観察に似た条件の設問が多いです。では、「実験なんて家じゃできないんだから、学校の授業をしっかり受けていれば大丈夫。」とお思いでしょうか、理科の設問の難しさは実験の手順や結果が文章で書かれていたり、表にまとめられていたりすることです。「問題の文章をよく読みなさい。」と言うのは簡単です。しかし、それだけでは子供に理解を深めさせることはできません。実験や観察で「解決したい課題や問題は何か。」を考え、その際に使用する器具などの操作の仕方や過程を一つ一つ確認することで、やっと子供は実験や観察の意味や器具の仕組みを理解します。学校の授業で行う実験や観察は一度きりです。家庭で、NHK for schoolなどで実験や観察の動画を改めて視聴する、またはカラーテストを解き直す時間が必要だと思えます。

おわりに

今号は、算数の学習について述べるが多かったので、ここでも算数について触れたいと思います。授業に出ていると、どの教科にも言えることですが、特に、算数は「積み重ね」の教科だと感じる人が多いです。

保護者の皆様は学生時代に経験がおありでしょうが、例えば、6年生の「場合の数」は、中学数学の「確率」はもちろん、高校数学Aの「順列」や「反復試行の確率」で小学算数の樹形図や表の考え方を公式に変換して解きます。また、1学期に「合同な三角形の作図(5年生)」を指導しましたが、中学数学2、3年「三角形の合同条件」や「三角形の相似条件」(←中学生が手こずる単元です)で、なぜ、2つの三角形が合同といえるかの証明問題を解きます。多くの中学生を見てきて思うことですが、小学生のうちに算数の苦手意識は作りたくないものです。